

**第六期長期策定委員会 傍聴者アンケート**  
**第16回実施分（令和元年7月25日開催） 自由記載欄**

**【傍聴者 13名】**

**○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。** ※傍聴者 9名記載

<ul style="list-style-type: none"> <li>・(ヒト・モノ・カネ)は、耳ざわりな上に、見た目も品位が感じられない。</li> <li>・栗原委員の「当事者の意見を聞く」というのは、賛成です。役所の方、是非現場へ。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の委員長の「セカンドオピニオンの」市民の相談(苦情)窓口のようなものは、私もその必要性を感じていました。ぜひ、ご検討を。 (ADR(裁判外紛争解決)の手法が市役所や、行政でもあって良いと思います。)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期計画書は市民が読んで実現(推進)のイメージがもてるものでなければ意味がないと思います。せつかく市民委員やパブリックコメントから、市民が読んで分かるような具体的な案が出されていますので、抽象的(大枠)な表現にならないようにするとよいと思います。抽象的な表現でもその中に含まれています、では市民は分かりません。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栗原委員の話に地下空間の活用が挙げられましたが、実現の可否はあえて無視しますが、武蔵野市において「個人商店等により構成された町中を歩いて移動する」というのは他の都市との差別化要素であると考えます。従って、拠点と拠点を直接つないでしまう渋谷の駅前地下道のようなものは必要ないと考えます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育施設は武蔵野市には市民会館しかない。公民館があれば、もっと市民に「学び」があったかもしれない。それは市民活動の底上げになっていたはず。すぐくザンネン！ このままでは社会教育による学びから市民活動への流れは生まれない。</li> <li>・青少年の置き換えの話</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に対する評価を評価委員自らが行う…とはおかしな提案ですよ。大切なのは、次の策定作業の時に、現行委員からの聞き取り、ヒアリングが可能かどうかと言う事。そのためにも策定委員の作業分担のありようを明確化し、ワーキング、ペーパーの公開・保存を徹底して下さい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・渡邊委員のおっしゃった「若者の居場所づくり」について 大人が用意した物ではなく、若者が主体性をもって活動できるところが望ましい、とのご意見が同感です。</li> <li>・栗原委員の不登校対策について「チャレンジルーム」に通いたくても通わせてもらえない子どもは市としてどの様な受け皿を用意していますか？ 知りたいです。不登校児 130 人の中でチャレンジルームには何人通えるのでしょうか？</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが当事者として、主人公として、育ち、活動していけること、やらされ感ではないことは大事です。</li> <li>・「青少年」の言葉</li> <li>・外国籍の子どもへの支援への副市長の認識は、ちょっと違う気がしました。たしかに保護者会のつきそいや進路相談等の対応で相談員さんは活躍していただいています。日本語が母語で育ってこなかった子どもたちの学びの困難さを教員が把握することは難しく、帰国・外国人相談室やボランティアに助けられています。</li> <li>・「武蔵野市民科」が六長策定委員や市民の思い、願いにその形になるのか心配です。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブコメや意見交換会の議論をふまえ、きめこまかい修正をして頂いたことに感謝します。今期の委員会と事務局が市民の意見をていねいに取り込んで頂いていること、ありがたく思います。</li> </ul>

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。 ※傍聴者9名記載

<p>・シビックプライドは委員の方々からも出ていましたが、市民のアンケートの中でもおおむねひっきりかきを持つとの意見が出ています。にもかかわらず、言い回しが変わっていないのは残念。</p>
<p>・先日市民意見交換会(6/28)において都市型水害(ゲリラ豪雨対策)について意見を述べ、7/5 意見書も提出させて頂きました。今回、答申案作成に向けた策定委員会の意見一覧にも全くゲリラ豪雨対策について議論は何もありません。</p> <p>武蔵野のハザードマップで最も浸水被害の危険地区である北町住民として見捨てられた思いです。</p> <p>10年後の目指すべき姿として「誰もが安心して暮らし続けられる魅力と活力があふれるまち」作りの目指すべき姿と基本目標とは？</p> <p>市民意見を踏まえて再考して頂きたいと思います。</p>
<p>・基本施策3(3)緑と水のネットワークの推進</p> <p>雑木林は市内に数カ所残されています。境山野緑地は個別の公園緑地であり、1つだけの特出しすることは長期計画への記載としてなじまないということであれば、「雑木林については、その成り立ちや特性を考慮した管理を行う。」と明記すべきではないか。(個別の記載がなじまないとは思いませんが。)</p> <p>前期の「緑の基本計画」の中で重点施策としたにもかかわらず実施しなかったわけですから、武蔵野市らしい長期計画として、今度こそ、実現すべき長期計画として、特出して明記すべきだと思います。</p>
<p>・境山野緑地を188の公園と一まとめとするのが雑。公園によって機能や使い方がいろいろある。それぞれ〇〇な機能を持つ公園は三駅圏、△△な機能のある公園はコミュニティ圏のように武蔵野市の公共施設は考えるべき。当然、公園は公共施設。</p> <p>・P2(3)コミュニティを育む…の中の「コミュニティのつながり」という表現は成り立つのでしょうか。おかしくないか。</p> <p>・P44基本施策4は良くなった。が、P2(3)の新たなチャレンジについて基本施策4の中に書き込みがない。pp-1-2の内容は超重要では？</p> <p>・ところどころICT技術という記述があります。(ex.P42) Technology 技術は変では？</p>
<p>・渡邊委員の提案書の4Pの下部にあるインクルーシブ教育への提案は重要です。インクルーシブ教育は障害のある子とない子が一緒に学ぶことではなく、すべての子どもがメインストリームの学校(地域)で安心して学べる環境にしていくことです。</p> <p>そして、今現在ある通常の学級のままではインクルーシブ教育は成り立っていきません。国や行政の義務となっている『基礎的環境整備』をする必要があり、その上で1人1人のニーズにそった合理的配慮(合理的調整)を国際条約では求められています。ですので、『通常学級の基礎的環境整備を進め、通常学級の在り方の変容が必要である』という主旨の文言を追加する必要があります。そしてそのことは、学校のことだけでなく、地域生活を含めた社会に同様のことが求められています。今まであった普通や通常の社会の在り方の変容が必要であるということも、わかると思います。</p> <p>・次回の計画策定の際は、社会的に情報が届きにくい人への情報保障などの配慮と、パブリックコメントや市民意見交換会の開き方を考えてほしいと思います。</p>
<p>・外国人問題、まちづくり問題、わかもの参加…等、やっと、現場と切りむすぶ議論が始まったのかな…という印象をもちました。ところで策定作業スケジュール、もはや、しめ切りありき…は限界ではないですか？</p> <p>延長が必要に思います。</p>
<p>・インクルーシブ教育システムを実現する為に。</p> <p>①障害を持つ子供が無償の公立学校にて学べる様な支援が必要。(予算も考えて頂きたい)</p>

②LD、ADHDの子供への学問を教えらるる教員の配置←現在各学級に1人居ればいいほどしかないのが問題。(この様な子供は勉強のつまづきから学校に行けなくなるケースが多い事と、現在の特別支援学級の先生の中に、LD、ADHDの子供にわかる学びの方法を知っている人がいない)

③そして不登校児への(現在居る130人)支援を具体的に記載して欲しい。学校に行きたくない子を無理に戻す支援は不用であり、心が満たされれば自然に戻ります。まずは、不登校児が安心して過ごせる場所への無償化の為の経済的支援をお願いします。(不登校児に)専門家は不用(要)です。

・P23重点施策(2)について

保健・医療・福祉・教育の関係機関の連携とありますが、子どもが落ちつきがないと病院に行かされる。病名をつけさせられる。薬を飲まされる。この必要のない連携を止めて欲しい。親が望まない検査、医療ははぶく様にして下さい。

・答申案 Ver1 7P「②子ども・教育」で小中一貫教育の実施の是非について、書き込まれていたのが良かったです。小中一貫教育検討委員会が「六長の前振り」といわれていたもので、事実経過は必要なので安心しました。

・P39「(3)学校と地域との協働体制の充実」で「地域と学校が子どもに対してどのような資質・能力を育むか」という目標を共有してが、武蔵野市の六長策定の文言らしくない感じがしました。P32の前文が「子どもたちが希望を持ち、健やかに過ごせる」等あるように、子どもの「育ち」(主体的な育ち)を地域と学校が協働し連携できるように文言をそろえた方が良いと思いました。

・P68「(1)課題に的確に対応できる人材の確保と育成の強化」の専門職に保育士を位置づけていただきたいです。武蔵野市の貴重な財産の1つで市の保育政策を担う職員の位置づけが子育てしやすい街づくりには大事です。

・P38「(5)一人一人～」の中段「教員や保護者、地域住民がインクルーシブ教育システムについて理解を深め～」は「教職員や保護者～」にならないでしょうか。学校で働く嘱託職員も含め、理解を深めることが、学校運営には必要です。

下記の3点、ご検討下さい。

①P44の基本施策4のまえ書き、下から2行目「これまで積み上げられてきた」の主体があいまいなので、この行の冒頭に「地域社会や市民活動によって」を入れた方がよいです。

②コミュニティ未来塾は「これからのコミュニティ」の答申で学びの機会が必要という提言が出されたことを受けて設置されているものです。したがって、P44の下から5行目「語らう機会」を「語らい学びあう機会」とすべきではないでしょうか。そもそも、「これからのコミュニティ」や「市民活動促進基本計画」では、ともに「学びの機会」の重要性を強調しているのに、基本施策4のどこにも「学び」がないのはおかしいと思います。

③P47の3段目の一文目は、日本語の文章としておかしいです。

正しい日本語にするには、例えば、2行目を「学びを通して地域のつながりづくりに取り組むことへの支援を検討していく。」とする必要があります。「～高めつつ」「するとともに」「取りくむ」という三つの用語(その主語は「市民が」)が並列になることが必要です。

(※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。)